

# 道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校  
校長室だより

## お天道様が見ている

朝夕はめっきり涼しくなりました。樹木の緑もしだいに彩を変え、秋本番のさわやかな季節がやってきました。秋は、スポーツの秋、食欲の秋、勉学の秋などと言われるように、何をするにも事が進む季節です。日々の生活を前向きな気持ちで過ごしてほしいと思います。

新型コロナウイルスの関係で、様々な行事が出来ない状況でしたが、できる限りの予防策を講じ、9月26日の体育祭、そして先週の遠足が無事終了しました。制限の多い中で、皆さんは意欲的に取り組み、楽しい行事になったように思います。コロナの関係もまだまだ気を緩めることは出来ません。また、これからインフルエンザの流行も心配されます。感染予防を引き続きよろしくをお願いします。

さて、今号の話題に入ります。最近はあまり聞かれなくなりましたが、私が子どもの頃「**誰も見ていなくても、お天道様が見ているよ**」という言葉をよく耳にしました。「お天道様」の読み方は、「おてんとうさま」または、「おてんとさま」と表記する場合があります。

ここで「お天道様」とは太陽の事を指しますが、神様に置き換えられる場合もあります。「たとえ誰も見ていなくても、空の上の太陽はあなたの行動を見ているよ」「どんな時でも神様が見ているよ」という意味です。例えば、誰も見ていないから道にごみのポイ捨てをしてしまったたり、「これぐらいはいいじゃないか」と誤った行動をしてしまったたりした経験はありませんか。こんな時、「**お天道様が見ているから悪いことはしてはいけませんよ**」という教えです。

この言葉は善いことにも使われます。善い行いをするとき、誰も見ていなくてもお天道様が見てくれているからと、**陰徳（密かにする善い行い）を積む**人もいます。いろんな成果を上げている人というのは、きっと誰も見ていない時でも地道な努力をしているのでしょう。

また、「お天道様」は自分自身に置き換えられる場合もあります。誰が見ていなくても、自分の心はその行動をしっかり見ています。人目を盗んでサボったりするのか、人の目がいないところこそ努力を重ねるのか。結果として返ってくるのも自分自身だということも忘れてはいけません。

「**因果応報**」という言葉があります。「**良きも悪きも自分の受ける結果のすべては自分が作るのだ**」という考え方です。自分のしたことは必ず自分に返ってくるということです。

「カリスマ経営者」と呼ばれた稲盛和夫さんという人がいます。京セラを興して世界的な企業に育て、再建不可能と言われたJALを立て直すなど多くの偉業を成し遂げられました。稲盛さんは著書の中で、自身の人生経験で得た教訓として次のように述べられています

《因果応報の法則は、結果が出るまでには時間がかかることがあります。原因に対して結果がすぐにできることもあるにはありますが、多くの場合にはなかなか結果が出てこないのです。しかし、20年30年といった長いスパンで見ると、必ず因果応報の法則通りの結果になっています。私は昭和7年に生を享(う)けて、ずいぶんと長い人生を歩んできました。これだけ長く生きてみると、いくらか長いスパンで人生を振り返ることができます。すると、悪いことをした人が、繁栄していることはまずありません。良いことをしてきた人が不遇のままにいるということもありません。人生を長いスパンで見ると、大体つじつまが合っています。》

「誰も見ていなくてもお天道様が見ている」という言葉は、とても大切な教えだと改めて感じます。「誰も見ていないからいいや」「誰にも見られていないから良いことをしてもしょうがない」と流されそうなとき、この言葉を思い出して欲しいと思います。